

2018 年度（平成 30 年度）

本報告書は、学校法人福岡保健学院 福岡看護専門学校第1科の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

学校関係者評価 報告書

2019 年 7 月 1 日

学校法人福岡保健学院
福岡看護専門学校第1科

学校長 松原 孝俊

学校評価実施責任者
副学校長 淀川 めぐみ

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生募集
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅷ 法令等の遵守
 - 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所属	選出区分
西村 由紀子	純真学園大学 保健医療学部 看護学科長 教授	専門家等評価委員
早川 明美	福岡和白病院 看護部長	企業等委員
跡部 秀之	福岡県立福岡魁誠高校 学校長	高校等評価委員
後藤 歩	福岡県済生会二日市病院 看護師	卒業生委員
阿部 正剛	福岡市議会議員	地域委員

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

- 第1回委員会 日 時:平成30年9月26日(水) 15:00~17:00
場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)
- 第2回委員会 日 時:平成31年3月13日(水) 15:00~17:00
場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)

4) 学校関係者評価の実施

平成30年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果及び内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念に沿った教育目的・目標が学生便覧に明記されている。人材育成像は、学生便覧・ホームページなどに掲載している。また、保護者会やオープンキャンパスで本校の教育についての周知を図っている。関係業界に対しては実習指導者会議や高校や本校で開催される説明会で周知を図っている。現在の看護では、アセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力が求められている。これら、看護師に必要な知識・技術・資質については、学生便覧・シラバスに明記している。実践力強化を目指すため、高機能シミュレーターを活用し臨床場面を想定した教育方法を取り入れ医療界に求められているニーズに対応している。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育に満足している」「専門的な知識・技術が身につく授業であり満足している」「専門職として役立つことを身につける内容であり、満足していると答えた学生が95%以上であった。

課題及び今後の改善方策

人材育成像について明記しているものの、それが関係業界にどの程度認識されているのかが明確ではない。今後、連携を図っていく中で把握し、アプローチしていく必要がある。

学校関係者評価委員会からの意見

教育理念・目的・目標、人材育成像が周知され、対象者がどのように理解しているのかが重要である。卒業生については調査で明らかになっている。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

主たる実習施設と毎月実習指導者会議を設け、学生支援について検討している。

学生に求められている、アセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力を育成するために、シミュレーターを用い、臨床場面をイメージした演習を取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

福岡保健学院の事業目標・学校の事業方針をもとに、管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組み、評価している。

学校組織と諸会議規定、諸規定は明確になっており、就業規則、学生便覧に示されている。また、学事システムや共有フォルダを活用し、業務の効率化を図っている。

課題及び今後の改善方策

学校全体の共有フォルダは活用していたが、科毎の共有フォルダを作成し、業務の効率化を図る必要がある。

学校関係者評価委員会からの意見

共有フォルダ内の情報をどのように教育に活かすか具体的に計画し実施すると良い。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

諸規定は各科で保管しており、いつでも教職員が閲覧できるようにしている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

科毎の共有フォルダの活用により、学年運営の効率化を高めたい。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学生便覧に教育課程を明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、教育課程・授業計画を説明している。教育方法は看護実践者を育成するために毎年検討し工夫している。

授業評価については、内部教員は終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしているが、個人に任されており、結果の共有等は図れていない。

看護師国家試験合格に向けた取り組みとして、1年次より3年間を見据えた計画を立て実施している。特に3年生に関しては全教員で支援している。

卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」については全員が満足していた。

教員の研修に関しては専門性を高める研修に積極的に参加し、また実習指導者研修や看護師教育の講師として派遣している。

課題及び今後の改善方策

授業評価については概ねできているが、個人の裁量に任されており、教育の質を高めるためにも教員全員が実施する必要がある。また、非常勤講師についても実施する方向へシステム化する必要がある。

学校関係者評価委員会からの意見

様々な取り組みをしている。今後、組織全体の取り組みとしていくのか検討していくと良い。

授業評価については組織としての非常勤を含めた全教員が取り組み、結果を学生へフィードバックしていくシステムができると良い。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記・周知し会議にて学習状況を把握している。

入学前からの e-ラーニングの導入により基礎力強化に繋がったり、講義・演習・実習にルーブリッ

ク評価を導入、高機能シミュレーターの活用など工夫している。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：B ■学校関係者評価：適正

■コメント

実施する体制はあるが、教員により実施に差があるため、より質の高い教育のために実施していく必要がある。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント

1年次より個別に学習支援を実施、特に3年生は教員による夏季・冬季セミナー特別講義、成績に応じたグループ学習、個人学習会、模擬試験等を実施した。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取り組みが行われているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント

研修参加の費用負担が学校規定で定められており、教員は計画的に研修に参加している。

福岡県専任教員養成講習会、実習指導者研修、関連病院の研究指導等講師として派遣した。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職支援として、学生の希望を踏まえ、個別支援を行い卒業時全員が就職決定した。関連病院への就職率は74%で、関連施設のニーズは満たせた。

国家試験合格に向けて、成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。看護師国家試験合格率100%であった。看護師国家試験については毎年分析を行い、保護者会・講師会議で説明を行い、協力を仰いだ。

退学者については今年度の卒業生は1・2年次に進路変更した学生が多かった。現1・2年生は退学者がほとんどいない。各学年年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学習困難、実習でのつまずきに対して早期にキャッチし、学生個々のペースに合わせて支援するなど状況に合わせた学びを支援している。保護者の協力を得たり、学生カウンセリングを活用したりしている。

課題及び今後の改善方策

退学者の低減に向けて、学生一人ひとりへの個別の関わり、学年を超えた学生交流の場の提供、全教員がいずれかの学年を担当し複数教員で支援する体制づくり、実習という学ぶ場の変化や求められる実践対応力について共に考え気づけるような支援など実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

退学者低減に向けての対応がなされている。在学生も含めた交流を企画しているのはとても良いのではないかと。学生の社会的な活動を知ることが、学生理解・指導に役立つと良い。在校生の社会貢献については入学時の個人調査表等で知り得るのではないかと。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

今年度の卒業生は1・2年次に進路変更した学生が多かった。要因を分析しているので具体的な支援方法を明確にし取り組んでいく予定。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: ほぼ適正

■コメント

在校生の社会貢献については具体的に把握できていない。卒業後の活動把握については、関連病院や実習施設に就職した卒業生の把握は行えている。しかし、それ以外の卒業生の把握は不十分である。

項目 V 学生支援**総括**

学生支援についてはクラス担任を中心に全教員で行っている。卒業時満足度調査において就職については履歴書・面接指導を実施、96%の学生が満足していると答えていた。

学生相談については、担任が主に行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。スクールカウンセラーを2名(非常勤)配置しており、学生が教員を介さず自由に直接カウンセラーに予約を取りカウンセリングを受けるシステムとなっている。カウンセリングが必要と考えた学生については、教員が学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携については各学年で保護者会を実施し、必要時保護者面談も実施している。学生の学習状況、学校生活上で気になる状況がある場合は、保護者に連絡を取り保護者と共に学生を支援している。

高等学校との連携について、本校への入学生の出身校を中心に訪問し、本校の教育課程、学生支援状況や国家試験・就職状況について説明している。また、職業紹介等進路ガイダンスへ参加している。

修学支援については奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業時満足度調査結果では、「教職員の学生への対応に満足している」と回答した学生は、そう思うが全体の97%であった。「カウンセリングなどのサポート体制へ満足している」が93%であった。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

高等学校への訪問では在校生・卒業生の状況を伝えている。また、進路ガイダンスに参加し、看護師の仕事について紹介したり、本校について紹介したりしている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。

項目VI 教育環境**総括**

トイレのハンドドライヤー、ウォシュレット、講師室の改装を行い、学内の設備は整備されている。3月にWi-Fi環境が整った。学生が使用するコピー機をカード式とし、価格を下げることで学生の経済的負担軽減に繋がった。図書室には古い図書もあるが、毎年学生や教員の意見を取り入れながら新刊書を購入している。これらにより、学習環境の整備に繋がっている。

課題及び今後の改善方策

1・2科は授業時間が違うため、1つの実習室を共有している。しかし、実践力の強化を目指し使用頻度が増加している。ハード面は急には改善できないが、使用方法の工夫が必要である。災害時の対応について、火災のみでなく地震・津波含めマニュアルの見直し・作成が必要である。

学校関係者評価委員会からの意見

シミュレーターの活用状況や課題について具体的な数値や状況分析が今後必要となる。緊急時の連絡体制や関連施設であり実習施設である福岡和白病院が被災した場合の学校や学生の役割を明確にしておくが良い。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業時の満足度調査で「技術習得のための教材・教具など学習環境に満足している」学生は96%であった。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

実習指導体制については各実習施設と実習前、実習中、実習後に検討し、学生の学びを保障している。主たる実習施設では、学生ロッカーの買い替えや休憩しやすい環境の整備など対応した。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

毎年学生、教職員で避難・消火訓練を実施している。災害時の行動については、学生便覧に記載し、学生に伝えている。各学年の緊急連絡網を作成し、学生にも周知している。教員に關しても連絡網を作成している。

項目VII 学生募集**総括**

毎年、福岡県内を中心に高等学校を訪問し、学校紹介を行っている。今年度は42校の学校訪問を実施した。訪問時、学生の状況を報告し、本校の教育の実際について説明している。オープンキャンパス4回、高校教員向け学校説明会を1回実施した。高校より依頼のあった職業紹介、面接指導も実施した。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

高校教員やオープンキャンパス参加者には国家試験合格率や就職率や就職状況など具体的に伝えている。

項目VIII 財務

総括

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、収支は安定している。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出し予算を編成している。また、各校からの予算が本部で集約され、学校法人として許可されている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

ハード面の課題・予算については、中長期計画に反映できるよう検討してはどうか

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、収支は安定している。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

決算の管理は管理部門で確認されており、収支バランスが示されている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。教職員の休憩室にハラスメント委員の連絡先が書かれたポスターが掲示されている。また今年度、ハラスメントに関するアンケート調査が実施され、結果の開示も行われた。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生にも提示し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。

実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

課題及び今後の改善方策

ハラスメントのアンケート結果を分析し、必要時研修等を実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

学生—教員間のハラスメントは一般的に見えにくい。投書箱の設置など意見を把握する機会を作ることを検討してはどうか。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己評価・学校関係者評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

項目 X 社会貢献、地域貢献

総括

学校施設は関連施設の研修や会議に利用できるようにしている。図書室は卒業生も使用できるようにしている。教員を高等学校や関連施設、福岡県や福岡県看護協会主催の教員養成講習会や実習指導者研修に講師として派遣している。

学生のボランティアに関しては、実習施設の小児病棟のサマーキャンプへの参加や学校周辺の清掃を行っている。

課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動については奨励したいが、情報量が少ない。情報量を増やし学生に提示する機会を増やす必要がある。

学校関係者評価委員会からの意見

3年間という修業年限で社会貢献を拡大することは難しいと考えられるが、主たる実習施設と連携したボランティア活動は実利的ではないか。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献はできている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ボランティア活動について情報量を増やし、学生に提供していく必要がある。福岡和白病院の活動に共に参加するなど検討していく。